コラム

言葉を考える

～気をつけたいカタカナ語～

何気なく使っているカタカナ語ですが、元である英語圏では、女性差別につながりそうな言葉を見直ししています。よく使っている言葉が対象となっていないかチェックしてみましょう。

マン（男）で人類全体や両性を代表させることを避けるため

- ビジネスマン（会社員） → ビジネス・パーソン
- カメラマン（写真・映像撮影者） → カメラオペレーター、シネマトグラファー
- チェアマン（議長） → チェアー
- ポリスマン（警察官） → ポリス・オフィサー
- セールスマン（販売促進担当者） → セールス・パーソン
- スポークスマン（報道官） → スポークス・パーソン
- スチュワーデス、スチュワード（客室乗務員） → フライト・アテンダント、キャビン・アテンダント

マスター（主人）は極力使わないようにするため

- マスター・キー（親鍵） → ユニバーサル・キー
- マスター・テープ（音源テープ） → パターン・テープ
- マスター・ピース（傑作） → ベスト・ワーク

マザー（母）を使わないようにするため

- マザー・タング（母国語） → ネイティブ・ラングィッジ
- マザー・ランド（母国） → ホームランド

人や場面に配慮した言葉が自然に使えるようになると良いですね。

参考文献
江上茂　2007年　差別用語を見直す　花伝社